

徳之島町 町誌編さん だより

(徳之島町内全戸配布)

第13号

2021. 05. 10

新町誌の発刊を前に — 郷土につながる全ての方々の家の宝に —

節 (しち) や水車 (みいじぐるま) 月 (ちきい) や走馬 (はりま)

— 春夏秋冬の四季は水車のようにぐるぐると巡ってくるが、
月日の経つのは馬が目の前を走り去るほどに早いものである。

徳之島町誌編さん審議会 委員長

まちだ すすむ

町田 進 (徳之島町文化協会会長・町文化財保護審議会会長)



先の『徳之島町誌』が昭和45年に刊行されてから早いもので、もう51年の歳月が過ぎてしまいました。この半世紀の間には徳之島島内でも考古学や歴史学などで貴重な発見が数多くありました。しかしその反面、消滅したり形骸化したりした伝統文化も多々あります。時の移ろいととも古き良き文化は忘却のかなたに押しやられようとする昨今です。

このような現状をかんがみて、徳之島町では先の『徳之島町誌』以後の研究成果やいろいろな出来事が風化しないように記録し、『徳之島町史』と名もよそおひも改めて刊行することとなりました。このたび刊行される町誌は、通史編、自然編、地域編に、小・中学生をはじめ一般の方々を対象とした副読本と、別々に刊行されるのが特徴です。より幅広く、より深みのある町誌が刊行されるものであろうと、わたくしども審議会委員一同、心から期待しているところです。

ちなみに通史編は、「第Ⅰ部 先史・古代・中世」「第Ⅱ部 近世」「第Ⅲ部 近現代」から構成され、従来の史料に加え新出史料などを駆使して、新たな視座からの分析を試みるものです(令和4年度刊行予定)。自然編は、「地質岩石」「陸や川や海の生き物」「植物」「貴重な動植物を守るための自然保護活動」と大きく分け、徳之島の自然の豊かさ、深さを具体的な記述を通じて、近く期待される世界自然遺産の登録にふさわしい徳之島の自然を紹介していきます(今年度上半期刊行予定)。いっぽう地域編は、従来の生活文化や伝承の聞き取りを示すのに加え、シマ(集落)それぞれの「場所の記憶」をかつてあった建物やその場所ごとに行われてきた事柄などを地図上に示したり、またシマ(集落)の話題となる出来事をとりあげたりするなど、貴重な集落誌になると思われれます。さらには、空撮した海の写真上にサンゴ礁やくモリ(サンゴ礁に囲まれた潮溜まり)、カタマ(魚がよく釣れるポイント)の名称、山間の地名などを紹介することなどはかつてない特徴となるでしょう(今年度下半期刊行予定)。また、今回の町誌編さん事業で特記されるべきは、徳之島町の歴史や文化の代表的な内容を小・中学生をはじめ、一般町民や出身者たちにもわかりやすく示した副読本が計画されている点です。この一書を通して「ふるさと徳之島町を誇りに思う心」が芽生えてほしいものです。

このたびの町誌編さん事業は、町民・出身者やシマ(集落)、町にとってきわめて価値あるものとなるはずで、郷土につながる全ての方々と世代を超えて共有することができる価値ある『徳之島町史』を、一家に1セットぜひとも揃えてお読みいただきたいです。きっと皆様の家の宝物となると思い、お勧めする次第です。(令和3年3月19日成稿)

徳之島町誌編さん室の人事異動

新体制のもと、気持ちも新たにかんばります。引き続き、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

就任 社会教育課町誌編さん室室長 竹原祐樹 郷土資料館・町誌編さん室業務兼務から町誌編さん室業務に専従。

社会教育課(町誌編さん室)付再任用職員 米田博久 3月末をもって郷土資料館長兼町誌編さん室長を定年退職。

徳之島町誌編さん審議会を開催し、委員の委嘱更新をしました

去る2月15日に町誌編さん審議会会議を開催しました。本来であれば昨年の秋に開催予定でしたが、折からのコロナ禍の影響で開催が延期されていたものです。今回は委員の更新時期にあたり、委嘱式を行い、下記のとおり決定しました。

今回の会議では、事務局からは「町誌本編（自然編・地域編・通史編）の編集作業の進捗状況」や「町誌の販売価格・販売方法」等について報告があり、「刊行にかかわる予算案の検討」、そして今年末には通史編の原稿提出締め切りが迫っていることから、「本編の内容」について委員の方々からより具体的なご意見ご要望をいただきました。



| | | |
|------|-------|--|
| 委員長 | 町田 進 | (再任。徳之島町文化協会会長・町文化財保護審議会会長。徳之島町井之川在住。) |
| 副委員長 | 皆村 武一 | (再任。鹿児島大学名誉教授。鹿児島市在住。) |
| 委員 | 深澤 秋人 | (再任。沖縄国際大学教授。沖縄県島尻郡南風原町在住。) |
| | 大河平才毅 | (再任。徳之島町教育委員。徳之島町亀津在住。) |
| | 四本 延宏 | (再任。奄美群島文化財保護対策連絡協議会会長。伊仙町馬根在住。) |
| | 幸野 善治 | (再任。徳之島町副町長) |
| | 福 宏人 | (再任。徳之島町教育委員会教育長) |
| | 政田 正武 | (新任。徳之島町役場総務課課長) |

町誌編さん事業日誌 (抄)

| 年 | 月 日 | 内 容 |
|------|----------|--|
| 令和3年 | 2月15日 | 徳之島町誌編さん審議会会議(委員の委嘱、町誌刊行計画の確認、各部会活動の報告等)開催。 |
| | 3月7・14日 | 先史・古代・中世部会 遺物分布調査(於・町内南部・中部)および実測作業実施。 |
| | 3月18・19日 | 先史・古代・中世部会 町内出土遺物所在確認調査(於・霧島市 鹿児島県立埋蔵文化財センター)実施。 |
| | 3月22日 | 近世部会 Web 会議(第2回)(調査・執筆の進捗状況の確認、執筆要綱の確認)開催。 |
| | 3月31日 | 徳之島町誌叢書(3)『徳之島町「民俗文献」選集』納品。 郷土資料館長兼町誌編さん室長・米田博久 定年退職。 |
| | 3月 末 | 自然部会「自然編」原稿提出。 |
| | 4月 1日 | 社会教育課町誌編さん室長・竹原祐樹就任。社会教育課(町誌編さん室)付再任用職員・米田博久就任。 |
| | 4月～(上半期) | 『徳之島町史』自然編 編集作業開始。 |

今後の町誌編さん事業予定

| 年 | 月 日 | 内 容 |
|------|----------|--|
| 令和3年 | 10月ころ | 『徳之島町史』自然編刊行予定。 ※ 販売価格、販売方法等については後日あらためてご案内します |
| | 9月～(下半期) | 『徳之島町史』地域編 編集作業開始。 |

※ 「町誌編さん室の 島のむんがたり」を『広報 徳之島』に連載中！ ぜひともご一読ください。

| | | | |
|------|-----|-----|---------------------------|
| 令和3年 | 2月号 | 第3回 | 『サルマタ(猿股)のはじまり』(米田博久) |
| | 3月号 | 第4回 | 『タキンシャ(滝下)＝実熊滝』のこと』(岩下洋一) |
| | 4月号 | 第5回 | 「徳之島町の考古学事始め」(大屋匡史) |
| | 5月号 | 第6回 | 「新生活様式と酒～酒の飲み方の変化～」(竹原祐樹) |

徳之島町 町誌編さんだより 第13号

〒891-7101 鹿児島県大島郡徳之島町亀津 2918

徳之島町生涯学習センター3階(徳之島町郷土資料館内) 電話番号: 0997-82-2908

徳之島町誌編纂室

本紙編集担当 : 大村達郎

※ 徳之島町役場では、条例等の法令名や、事業名・部署名については「編纂(へんさん)」の表記を使用しています。本紙では、発行元名を除いて、町民への広報としての役割から「編さん」の表記で統一しています。なにとぞご了承ください。

※ 徳之島町誌編さん事業は、全国の皆さまから寄せられた「ふるさと納税」の一部を活用しています。